

# 令和3年度第1回東北大学医療安全監査委員会報告書

国立大学法人東北大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

## 1. 監査の方法

国立大学法人東北大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき、東北大学病院における医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの説明の聴取を行うことにより報告を求めることによって現状を確認することにより、監査を実施しました。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、Zoomを使ったオンライン会議での開催となり巡視は行っていません。

- ・日 時：令和3年9月3日（金）10：00～11：10
- ・場 所：WEB会議
- ・委員長：武田 和憲（社会保険診療報酬支払基金宮城支部医療顧問）
- ・委 員：阿部 玲子（東北公済病院看護部長）
- ・委 員：三輪 佳久（齊藤・笹村法律事務所弁護士）
- ・委 員：原 忠篤（東北医科薬科大学病院病院長補佐（事務部部长））

## 2. 監査の内容及び結果

○東北大学病院の医療安全について

### I. 医療安全管理に係る体制

以下の項目について説明があった。

- (1) 医療安全管理の体制

### II. 医療安全推進室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 病院機能評価の医療安全関連 評価C項目とそれに対する対応
- (2) 病院機能評価補足的な審査結果

### III. 医薬品安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 医薬品適正使用状況調査
- (2) 未承認等医薬品評価委員会の開催
- (3) 未承認等医薬品の使用状況の把握

### IV. 医療機器安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 医療機器安全管理室に係る体制
- (2) 従事者に対する安全使用のための研修
- (3) 保守点検の計画策定と実施
- (4) 安全使用のための情報収集
- (5) 未承認新規医療機器の使用の適否等
- (6) その他「医療機器点検の日」実施状況

## V. 医療放射線安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 被ばく線量撮影プロトコル管理チーム設置
- (2) 医療放射線安全管理のための職員研修

## VI. その他

なし。

## 3. 総括

今回は、病院機能評価医療安全関連評価 C 項目に対する東北大学病院の取り組みを中心に報告があった。

高難度新規医療技術関連では、同意取得の際に、過去の実績や実施者の実施経験、資格等を具体的に記載する「ひな形文書」が整備され、実際の書式でも具体的に確認できた。さらに、実施後、退院時にもモニタリング報告書が作成されており、病院機能評価の要求を満たしていると考えられる。

患者や注射薬の誤認防止対策について、注射剤調整と投与に関する取り決めが作成されているが、注射認証実施率のモニタリングが行われ、注射剤の与薬実施場面におけるインシデント数が激減したことが報告された。対策立案だけではなく、実施率や有効性の評価もきわめて重要であり、今後も継続していただきたい。

リストバンドの装着も手順が整備されたので、今後評価していただきたい。

病理結果報告の未読問題については、既読、未読が確認できる仕組みが出来ており、病理結果の未読は診療科によるばらつきが大きく、未読の多い5つの診療科で全体の75%程度となっている。今後、改善できるのか注目していきたい。

MET コールは急変を回避する早期対応として重要かと思われ、院内にも周知されているようだが、どのような事例で MET コールが行われ、救命されたのかなど、具体的な事例を周知することがさらなる運用の改善に繋がるものと期待される。

医薬品安全管理室からは、医薬品適正使用状況調査と院内周知が行われており、優れた取り組みと考える。

医療機器に関しては、新しい医療機器導入時の研修、特定機能病院における定期研修に加えて新規採用者・中途採用者・復職者の研修も実施されており、十分な研修体制ができていると思われる。未承認、適応外使用、禁忌等医療機器の取扱については、診療科と高難度新規医療技術・未承認医薬品等管理センターで一元的に審査、承認、届出受理等が行われ、優れた取り組みと思われる。

今回の外部監査では、病院機能評価での課題についての改善策を中心に検証したが、是正対策が行われ、現場での対策実施率も向上しており、医療安全の PDCA サイクルがうまく回っていると思われる。今後も継続していただきたい。

令和3年9月15日

国立大学法人東北大学医療安全監査委員会  
委員長 武田 和憲